

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	アジア経済論	不可

下記の文章を読んで、問いに答えなさい。

アメリカは中国を第1の競争相手と定義し、対中政策の重点を貿易から経済安全保障とハイテク分野へ移し、サプライチェーンの強化策としての「フレンド・ショアリング」を新たな戦略として構想している。分かりやすく言えば、これは同盟国や友好国との関係を活かして、中国を排除したサプライチェーンを新たに構築する戦略である。昨年（2022年）の10月からアメリカは、日本とオランダに対し、先端半導体技術（製造措置）の対中輸出規制を強化するように求め続けた。その結果、今年（2023年）に入り、日本とオランダは先端半導体技術の対中輸出規制を強化することでアメリカと足並みを揃えた。それに続き、さらに今年（2023年）8月に、バイデンアメリカ大統領は、半導体・マイクロエレクトロニクス、量子情報技術、人工知能（AI）の3分野で米国企業の対中投資を制限する大統領令に署名した。これら一連のアメリカの行動は中国の猛反発を招いており、中国の対米報復措置が懸念される。

アメリカは中国との競争において、サプライチェーンの「ディカプリング」を主張してきたが、ここにきてそれがとても難しいことが判明され、アメリカは対中「ディカプリング」の主張をやめて、「ディリスキング」を主張するようになった。いずれにしても、ハイテク分野における米中競争は始まっており、最終的にはどの方向に向かうのか、また、近年中国との経済的結びを強めてきているアジア諸国にとって、アメリカのこのような対中政策・戦略は有益なのか、それともリスクなのか、について今日のグローバルサプライチェーンの現状を踏まえて論じなさい。